

19日の身柄拘束時のジョハル容疑者。ひん死の重傷で取り調べができない状態が続く（AP）。【写真右】タメルラン容疑者②とジョハル容疑者（ロイター＝共同）



## 爆弾テロ犯逮捕でも終わらない 全米が震撼する マッド・ボマーの恐怖

米東部ボストンで起きた連続爆弾テロで21日、ボストン市警幹部は逮捕されたジョハル・ツアルナエフ容疑者(19)と警察との銃撃戦で死亡した兄のタメルラン・ツアルナエフ容疑者(26)が、さらなる爆破事件を考えていた可能性があったと明らかにした。CBSテレビが報じ、地元紙もこれを伝えた。

CBSによると、銃撃戦の現場には不発の爆発物が残され、市警は弾薬類の貯蔵場所も発見。爆発物の中には、中東などで米軍車両を標的に路肩に置かれるIED(即席爆破装置)もあったという。市警幹部はこれを根拠に、別の攻撃意図があったと判断した。

兄弟に共犯者はいないとされ、CBSによるとボストンのあるマサチューセッツ州知事は町が平穏に戻るとしている。一方、専門家は今後も模倣犯が現れる可能性を指摘する。米国では政治や宗教的背景でテロ行為を行う爆破犯のほか、「マッド・ボマー」と呼ばれる爆弾マニアによる事件が日常的に発生しているからだ。

米犯罪事情に詳しいFRA連邦捜査官でハウンティール・ハンター(プロ賞金稼ぎ)の荒木秀一氏はこう指摘する。

「マッド・ボマーは、狂った爆弾魔の意味で、数十人が手配されている。逃げ回りながら爆破を繰り返しているものもあるし、2003年に2つの爆破事件を起こした爆弾魔には25万ドル(約2500万円)の懸賞金がかけられている。映画で爆破シーンを担当するスタッフが現実世界で爆弾魔に豹変し、死傷者を出す惨事もあった」

組織に属さない一匹狼タイプが多く、なかなか足取りがつかめないのが特徴だ。マッド・ボマーの犯罪傾向は放火魔と酷似しており、常習性が恐れられている。一火をつけるのと同じで爆発させないと気が済まなかったり、威力や爆発をアピールしたがる。病み切ったものから、捕まるまで犯行を繰り返す可能性が高い(荒木氏)

今回の事件をきっかけに模倣犯が出現する「負の連鎖」も懸念され、米国のテロとの戦いは今後も続くことになる。